徳島大学教養部紀要
（人文・社会科学）
第二十四巻　別刷
1989

指示表現の同一指示解釈について

山田仁子

徳島大学教養部紀要
（人文・社会科学）
第二十四巻　1989

指示表現の同一指示解釈について

山　田　仁　子

On Coreferential Reading of Referring Expressions

Hitoko YAMADA

Abstract

This paper deals with the coreferential reading of referring expressions.

When an entity is repeatedly referred to, the referring expression for this entity generally changes from an indefinite noun phrase to a definite noun phrase, and then to a pronoun. When the referring expressions occur in this order, the hearer (or the reader) can easily understand that they refer to one and the same thing. If they appear in a different order, s/he usually takes them to be referring to quite different things.

However, referring expressions in a reversed order sometimes refer to one and the same entity and the hearer understands their coreferentiality. The main purpose of this paper is to make explicit the factors that help the hearer to understand such coreferentiality.

1

一事物が指示されていく場合、その指示表現は原則的には、不定名詞句から始まり、定名詞句、代名詞へという順で現れる。この順序に沿う場合には，各指示表現が同一物を指示する事は，聴者に自然に理解されるが、この順序が破られると、同一指示解釈は難しくなる。この事実を示す例を、下に挙げる。

(1)　Fred put *a cat*$_i$ out.　　Freda fetched $\left\{\begin{array}{l}\textit{the cat}_i\\ \textit{it}_i\\ {}^{*}\textit{a cat}_i\end{array}\right\}$ in.

(Stenning, 166)[1)]

指示表現のこの原則的な順序は、各々の指示表現形式と結びつく既知性 (givenness) の差により説明される。事物の既知性は、事物が指示される毎に高まる訳だから、低い既知性と結びつくものから、高い既知性と結びつくものという順序で、指示表現が現れる事になる。指示表現と結びつく既知性の違いについては、まず、不定名詞句と結びつく既知性が他の指示表現よりも低い事が、次の例(2)より明らかである。

1)　各例においては、問題となる名詞句を斜字体で示し、指数 *i* により、指示物の同一である事を示した。

(2) i) A: John killed *a cop*.
A: Oh yes, I know which one it is.
ii) A: John killed *the cop*.
B: *Oh yes, I know who the cop is.
iii) A: John killed *Jack*.
B: *Oh yes, I know who Jack is.
iv) A: John killed *him*.
B: *Oh yes, I know who he is.

(2)－i) のように不定名詞句が用いられる場合、聴者がその指示物を知っている事は、前提とはなっていないのだが、他の定名詞句や代名詞が用いられる場合は、聴者がその事物を既に知っている事が、前提となっているのである。

更に、残る定名詞句と代名詞で、その指示物の既知性の差は、下の例(3)より明らかである。

(3) i) Mary dressed the baby.
The clothes were made of pink wool.
ii) Mary dressed the baby.
**They* were made of pink wool.
iii) Mary put the clothes on the baby.
They were made of pink wool.

(Garrod and Sanford, 335, 340)

定名詞句に較べ、代名詞の場合、その指示物は聴者にとって、より明確に知られている事が必要とされる。つまり、代名詞と結びつく既知性は、最も高いのである。以上まとめると、表現に結びつく既知性は、不定名詞句から定名詞句、そして代名詞という順で高くなっている。一事物を指示していく場合、その表現形式も、基本的にはこの順序で変化していく事になるのである。

既知性というのは、聴者の意識における事物の在り方に関わる概念であるから、既知性の程度に合った指示表現が用いられていれば、聴者による指示物の理解も、スムーズに抵抗なく行われる。一方、指示物の既知性と合わない指示表現が用いられると、聴者は、事物の同一性を理解し難くなり、非同一指示の解釈をとり易くなる。この傾向は、次の例(4)～(6)で明らかに見られる。

(4) i) Once *a man*$_i$ loved her. *He*$_i$ gave her a valentine.
ii) Once *a man*$_i$ loved her. *The man*$_i$ gave her a valentine.
iii) *Once *a man*$_i$ loved her. *A man*$_i$ gave her a valentine.
(5) i) *The man*$_i$ loved her. *He*$_i$ gave her a valentine.
ii) ?*The man*$_i$ loved her. *The man*$_i$ gave her a valentine.
iii) **The man*$_i$ loved her. *A man*$_i$ gave her a valentine.
(6) i) *He*$_i$ loved her. *He*$_i$ gave her a valentine.
ii) **He*$_i$ loved her. *The man*$_i$ gave her a valentine.
iii) **He*$_i$ loved her. *A man*$_i$ gave her a valentine.

(4)〜(6)のiii)では、一度指示を受けて表現された事物は、既知性が与えられているから、不定名詞句で指示される事はできなくなっている。また、先に現れた指示表現が示す事物の既知性よりも、後に現れる指示表現が示す事物の既知性の方が高くなっていれば、問題なく同一指示解釈がとられるのだが、まだ高くなれる余地がある場合に、同じあるいはより低い既知性に合った指示表現が現れると、同一指示解釈は困難となり、非同一指示の解釈が自然になる[2),3)]。

ところが、上で明らかとなった、指示表現の現れる原則的な順序も、時に破られる事がある。下の例では、既知性に合わない指示表現が用いられても、同一指示の解釈が与えられるのである。

(7) *He*$_i$ ordered hundreds of dissidents arrested and imprisoned under harsh conditions ... Those who cultivated private relationships with *the late President*$_i$, however, came away with another impression —— that of soft-spoken, self-effacing, often charming man ... (*Time,* 29 Aug. 1988, p. 5)

(8) Two years ago, in a major policy address in Vladivostok, Gorbachev declared, "*The far east*$_i$, by tradition is called the country's outpost in the Pacific ... But this view of *the region*$_i$ is no longer broad enough. *The Maritime Territory and the far east*$_i$ should be made into a highly developed economic complex."

Gorbachev's words were welcomed in *a region that watched with envy as Japan, South Korea and Taiwan grew flush with prosperity and its own economy sputtered forward at an even slower pace than the Soviet Union's overall growth rate*$_i$.

(*Time,* 15 Aug. 1988, p. 5)

(7)では、代名詞から定名詞句、(8)では、定名詞句から不定名詞句と、どちらの例においても、指示表現形式の順は、基本的な順序に逆行している。だが、どちらの場合も、二つの名詞句が指示する物は、同一である。

こうした、基本的な順序に逆行した表現というのは、事物の既知性に合っていない、つまりは事物に対する聴者の意識に合っていないと言える。にも関らず、(6)までの例とは異なり、(7)〜(8)では聴者はその同一性を理解できるのである。何故、このような事が起こり得るのか、何故聴者は(7)〜(8)の例に見られるような同一性を理解できるのか、以下に明らかにしていく。

2

まず、既知性に合致した原則的順序に逆行して、定名詞句が指示表現として現れる場合を、検

2) 例(4)〜(6)では、二つの指示表現が二つの異なる文に現れているが、同じ一つの文中であれば、同一指示の二つめの指示表現は、zero-anaphora になるのが、自然である。下に挙げる例 i)〜ii) を比較すれば明らかなように、代名詞が入れば非同一指示の可能性が生じる。

i) *He* loved her and gave her a valentine.

ii) *He* loved her and *he* gave her a valentine.

3) Levinson (1987) は、Grice の量の原則を基に、より情報量の多い表現形式が用いられると、含意として、非同一指示の読みが出ると説明している。

討する。

但し、ここで注意しておかねばならないのは、段落等、談話のまとまりが新たになる場合である。この場合、先行する談話のまとまりの範囲内では代名詞で指示されていた事物でも、新たな別の談話のまとまりでは、再び定名詞句で指示される事が非常に多い。同一指示の読みが困難な例(9)も、(10)の様に二つの指示表現が別の段落に属す事になれば、同一指示の解釈がかなり受け入れられ易くなる。

(9) *He_i loved her and *the man*$_i$ gave her a present.

(10) He_i loved her so much.
One day, *the man*$_i$ gave her a present.

段落の変わり目等、談話のまとまりが分かれる箇所では、それまで高かった事物の既知性も低くなり、その低くなった既知性に合った指示表現である定名詞句が現れるのである。よって、こうした談話のまとまりに関連した定名詞句は、一見、基本的な指示表現の順序に反していても、実は既知性に合った指示表現として説明できる。問題なのは、事物の既知性に合わない定名詞句が現れる場合であるから、以下では、定名詞句が、先行する指示表現と同じ談話の枠内に現れる場合を、検討していく。

以下の例では、何れも代名詞の後に定名詞句が現れ、かつ同一物を指示しているが、ここに共通するのは、定名詞句の持つ情報が、代名詞だけの場合より豊かで、各談話において効果的なものだという点である。

(11) Perhaps more important, *he*$_i$ will probably make the meeting his political last hurrah. *The aging leader*$_i$ has repeatedly said he hopes to resign his post ...
(*Time,* 21 Sep. 1987, p. 13)

(12) *He*$_i$ has helped all four sons to prosper in Hollywood ... That may be the ultimate reward. For after some 75 pictures, three Oscar nominations,... *the 71-year-old star*$_i$ is finally ready to cede the spotlight. (*Time,* 22 Aug. 1988, p. 50)

(13) *His*$_i$ Christian faith, *he*$_i$ says, is "No. 1 in my life." Earlier this year, *the trim 155-pound-er, whose denim shorts are specially tailored by Nike*$_i$, skipped Wimbledon because, he insists, "I want to get stronger." (*Time,* 15 Aug. 1988, p. 51)

上の例(11)〜(13)に見られる定名詞句に含まれる情報は、どれも文脈に密接に結びついて、効果的である。(11)、(12)の定名詞句に含まれる "aging leader" や "71-year-old star" といった情報は、続く、"resign his post" や "cede the spotlight" といった内容に対応している。また、(13)の定名詞句に含まれる情報は、続く "skipped Wimbledon" という行動をするに適わしい、この人物の姿を伝えている。

以上の考察より、代名詞の後に、同一物を指示する表現として現れる定名詞句というのは、ただ事物を指示するだけにとどまるものでない事が明らかである。定名詞句に含まれる情報が文脈に密接に結びつき、文脈において重要な役割を果たすならば、代名詞の後に定名詞句が続く事が許されるのである。

更に、代名詞ではないが、やはり既知性ある事物を指示する表現形式の固有名詞で、一度提示された事物が、再び定名詞句で指示される事がある。この場合、既知性に合致した指示表現の現れる順序に反する事になり、次の例(14)に見られるように、通常は同一指示解釈は困難になる。

(14) ***John**$_i$* loved her and ***the man**$_i$* gave her a valentine.

だが、やはりこの場合も、定名詞句の持つ情報により、同一指示が可能となる。次にその例を挙げる。

(15) And where was *Ne Win*$_i$, the man who before he resigned as leader on July 23 had seemed so unassailable? Rumor had it that ***the 78-year-old**$_i$* was honeymooning with his 25-year old wife — his sixth — at his magnificent villa on Inya Lake, about seven miles outside Rangoon, protected by 700 soldiers. (*Time,* 22 Aug. 1988, p. 7)

(16) But for all the talk about *Bush*$_i$'s asserting his political independence, ***the Vice President**$_i$* cannot hope to defeat Michael Dukakis without standing on the shoulders of the President. (*Time,* 22 Aug. 1988, p. 22)

(15)の定名詞句に含まれる情報 "78-year-old" は、後に出る妻の年齢 "25-year-old" と対になっており、(16)の定名詞句 "the Vice President" は、後に出る "the President" に対応している。どちらの場合も定名詞句は、前後に現れる他の事物との関係で捉えた、当事物に関する情報を含んでいるのである。

以上より、基本的な指示表現の順序に逆行して現れる定名詞句について一貫しているのは、単に既出の事物を指示するだけのものではないということである。定名詞句に含まれる、事物についての情報は、前後に現れる他の事物との関係で捉えた当事物の性質や、前後に示される行動・出来事に対して適わしい事物の性質を表わしている。先行する指示表現と同一物を指示してはいても、事物に対する捉え方は異なっており、その捉え方は、文脈に密接に結びついたものである。このように、代名詞には盛り込むことのできない、文脈で重要な、事物についての情報を盛り込むという、定名詞句の現れる理由が聴者に明らかな場合には、定名詞句が基本的な指示表現の順序に逆行して現れても、同一指示解釈が可能になるのである。

3

次に、既知性に合致した指示表現の順序に逆行して、不定名詞句が現れる場合を、検討する。

定名詞句は、指示物の既知性を示すから、先行談話に既出の事物の何れかと関連がある事は、その表現形式から示されていた。しかし、不定名詞句の場合は、既知性の殆んどない事物に対して用いられる表現形式であるから、既出の、つまり、既知性の高い事物との関連は、その形式からは、全く示されない。従って、不定名詞句の指示物が、先行談話に既に現れた事物と同一であるという解釈が為されるためには、表現形式以外の部分で、同一指示解釈を強く支持する要素が必要となる。

このような要素は、名詞句内にも、名詞句外の談話の中にも、存在すると思われる。以下では、この二つの範囲に分けて、不定名詞句の、既出の事物との同一指示解釈を促す要素を、明らかにしていく。

3-1

まず、名詞句内については、名詞句の中心である語の意味が、関わってくる。語の意味の重なりは、もちろんこれだけで同一指示解釈が保証されるというものではないが、同一指示解釈を助ける重要な一要素である。次に挙げる例でも、不定名詞句の中心の語が、先行談話に現れる名詞句の語と重なり合い、この事が、名詞句の同一指示解釈を、大いに助けている。

(17) (=(8)) Two years ago, in a major policy address in Vladivostok, Gorbachev declared, "*The far east*$_i$ by tradition is called the country's outpost in the Pacific ... But this view of *the region*$_i$ is no longer broad enough. *The Maritime Territory and the far east*$_i$ should be made into a highly developed economic complex."

Gorbachev's words were welcomed in *a region that watched with envy as Japan, South Korea and Taiwan grew flush with prosperity and its own economy sputtered forward at an even slower pace than the Soviet Union's overall growth rate*$_i$.

(18) After the two-hour meeting, the host, United Nations Secretary General Javier Pérez de Cuéllar, announced that the two sides would "attempt to achieve by June 1, 1989, a negotiated settlement of all aspects of *the Cyprus problem*$_i$."

That was the most promising news on *a troublesome issue*$_i$ in 3½ years — the last time Greek and Turkish Cypriot leaders met. (*Time*, 5 Sep. 1988, p. 9)

(17)で、不定名詞句内の語 "region" は、先行談話中の定名詞句内に見られるし、(18)の不定名詞句内の語 "issue" は、先行する定名詞句内の語 "problem" に、ほぼ同じである。

語の意味の重なりは、(17)、(18)の例に見られたような、単語に本来備わった意味に依るものだけではない。聴者の知識に依る場合もある。次にその例を挙げる。

(19) If the resignation offer proves to be more than a ploy, it could mark an ideological sea change in *Burma*$_i$'s government, and might presage the gradual reopening of *a country (pop. 38 million) that has isolated itself for decades from the rest of the world*$_i$.

(*Time*, 1 Aug. 1988, p. 19)[4]

⑳ But *1000 Airplanes*$_i$ may be his most daring ensemble effort yet, involving Chinese-American Playwright David Henry Hwang and Scenic Designer Jerome Sirlin. The trio has produced *a science-fiction music drama that is part Freud, part Kafka and part Steven Spielberg*$_i$. (*Time*, 1 Aug. 1988, p. 42)

⒆で、先に出る定表現 "Burma (=ビルマ)" が "a country (=国)" である事は、世間知として、聴者には明らかな知識であり、この知識により、二つの名詞句に意味の重なりが生じている。⒇では、"1000 Airplanes" が "music drama" である事は、先行談話より聴者が得る知識である。

上の例⒄〜⒇では、先行する定表現と後に出る不定名詞句とを比較した場合、共通するのは、こうした語の重なりだけである。特に⒄、⒆、⒇では、不定名詞句内の他の構成素は、聴者には未知の新しい情報を伝えていて、二つの名詞句の指示物が同一である解釈を助けるものではない。以上より、名詞句内で、同一指示解釈を促す要因は、語が本来持つ意味、あるいは聴者が事物について得た知識による、二つの名詞句の意味、指示表現の内容の重なりということになる。

3-2

名詞句内の語の重なりは、指示物の重なる解釈を助ける要素にはなるが、例 (5)-iii) (ここでは㉑とする) でも見た通り、それだけで、指示物の一致が保証されるというものではない。

㉑ (=(5)-iii) ***The man*$_i$ loved her. *A man*$_i$ gave her a valentine.

名詞句外にも、同一指示を示す要素が求められる。

名詞句を包み込む談話は、名詞句の指示物が置かれている状況を伝える。よって、この状況が一致すれば、指示物も同一のものとして一致することが、示されることになる。先に挙げた例⒇ (ここでは㉒とする) には、明らかに、この事実が認められる。

㉒ (=⒇) But *1000 Airplanes*$_i$ may be his most daring ensemble effort yet, involving Chinese-American Playwright David Henry Hwang and Scenic Designer Jerome Sirlin. The trio has produced *a science-fiction music drama that is part Freud, part Kafka and part Steven Spielberg*$_i$.

先に現れる名詞句 "1000 Airplanes" に付髄する情報、つまり、彼 "he" が脚本家と舞台デザイナーの二人と共同しての作品であるという内容と、後に現れる不定名詞句 "a science-fiction music drama..." に付髄する情報、つまり、その三人組が作り出したという内容が、完全に一致している。すると、各々の状況内容に当てはまる事物もまた、同一の物に一致するしかないことに

4) 例⒆, ⒇については、古賀 (1988) を参考にした。

なる。他の例(17)〜(19)についても、これ程明白ではないにしても、やはり談話の示す指示物の置かれた状況に一致が見られ、この状況の一致が、状況に当てはまる事物の一致をも示唆している。

名詞句の指示する事物の置かれた状況が、非常に明らかに一致していれば、名詞句内の語に重なりが見られずとも、事物の同一性が示される事がある。次にその例を挙げる。

(23) Fred said there was *a present for Freda*$_i$ in the closet. She opened the door and there was *a small tabby kitten*$_i$. (Stenning, (5) a)

"a present for Freda" のあると言われた場所は、たんすの中であり、"a small tabby kitten" が現れたのは、Freda がたんすのドアを開けた所、つまり、たんすの中で、全く同一の場所である。この同一の場所に存在する事物を、聴者は（また Freda も）同一物であると、解釈する。同じ位置にあれば必ず同一物と言う事はできないが、同一物である可能性は、かなり高められるのである。

(23)の例では、物理的状況の一致から、指示物の同一性が示唆されたのであるが、次に挙げる例(24)では、言語的状況の一致により、指示物の重なりが示唆されている。

(24) I have always liked the process of commuting; every phase of the little journey is a pleasure to *me*$_i$. There is a regularity about it that is agreeable and comforting to *a person of habit*$_i$ ... (Dahl, 1)

二つの名詞句を含む部分、特に、"is a pleasure to" と "is agreeable and comforting to" は、内容も形態もよく似ている。こうした言語的状況の一致から、その状況に置かれる事物の一致も示唆され、聴者（読者）は、"me" が "a person of habit" であるという事を、理解することになるのである。

以上より、指示物の既知性を示す名詞句の後に、不定名詞句が現れた場合、名詞句外で、同一指示解釈を促す要因とは、名詞句を含み込む談話によって示される、名詞句指示物の置かれた状況の一致であることが、明らかとなった。

3-3

上に論じてきた、不定名詞句が他の指示表現の後に現れる場合の同一指示解釈を促す要因というのは、しかしながら、同一指示の絶対的な条件という訳ではなく、また、同一性を必ず保証するものでもない。不定名詞句という表現形式自体は、既出の物との関わりを、一切保証しないものであるから、先行する別の名詞句が既に指示している物を、不定名詞句が指示する場合、これは、あくまで間接的に示唆されるだけにとどまるのである。二つの名詞句の指示物が同一物として一致しない可能性は、常に残される。

次の二例でも、名詞句の語や、談話状況により、二つの名詞句の指示物の同一性が示唆されながらも、非同一性の可能性が残る事実が、巧みに利用されている。

(25) "*Jesus* expected a radical transformation of the world and that this would involve the coming of *a heavenly figure,*" says Adela Yarbro Collins of the University of Notre Dame. But, she adds, "Jesus did not believe himself to be this figure."
(*Time,* 15 Aug. 1988, p. 46)

(26) Roces unexpectedly used the occasion to denounce "compromises and deals" in *the government*'s anticorruption program. "We cannot afford *a government of thieves,*" he warned. (*Time,* 22 Aug. 1988, p. 10)

(25)の読者は、不定名詞句 "a heavenly figure" まで読んだ時点では、常識的な知識により、この指示物を、前に出た "Jesus" と同一であると解釈すると思われる。だが、この同一指示解釈は、先にも述べた様に、確実な保証を得たものではない。そして、続く文 "Jesus did not believe himself to be this figure" により、同一指示解釈は覆えされるのである。また(26)でも、名詞句内の語の一致や状況により、同一指示解釈が促される。だが、やはり、この同一指示解釈も、確実に保証されたものではない。非同一指示の可能性は残される。この残された非同一指示の可能性故に、フィリピン政府という特定の政府を、直接的に非難する形は避けられているのである。

更に、不定名詞句が後に現れる場合の、先行の事物との同一性は、必ずしも、完全に一つの事物において一致するものとは限らない。単数を示す冠詞 "a" がついている場合でも、不定名詞句によって示され得る事物は、一つとは限らず、複数の可能性を持つ場合もあるからである。複数の可能性がある場合は、その複数個の事物の集合の内の一つに、先行の事物が当てはまるといった、多対一、つまり一集合対一事物の関係が成立することになる、上に挙げた例(24)、(26)にも、この関係を見る事ができるが、次の例(27)では、更に明確である。

(27) *Nixon* gave Bush the job he least desired.... Bush told his disappointed wife. "Boy, you just can't turn down *a President.*" (*Time,* 22 Aug. 1988, p. 32)

不定名詞句内の情報はわずかで、また名詞句に付随する部分は、非常に一般的な普遍的な叙述となっている。これによって不定名詞句の指示物が、一個の特定の物に、限定される事はない。複数個の物が、ここに当てはまり得る。名詞句内の語や、談話の状況から、二つの名詞句の指示物が重なる事は示されるが、その重なり方、同一性は、先行する一事物が、不定名詞句により示される事物の集合に含まれるといった性質のものとなるのである。

(27)とは対称的に、次の例(28)では、不定名詞句により指示される事物は、一個の特定の事物に限られ、従って、先行の事物との同一性は一対一の関係である。

(28)(=(19)) If the resignation offer proves to be more than a ploy, it could mark an ideological sea change in *Burma*$_i$'s government, and might presage the gradual reopening of *a country (pop. 38 million) that has isolated itself for decades from the rest of the world*$_i$.

(28)では、不定名詞句に盛り込まれた情報が、"pop. 38 million" といった具合に、極めて特殊で、具体性を持っており、これに当てはまるのは、特定の一個の物に限定されている。

このように、不定名詞句によって指示される物は、名詞句内や談話内の情報によって、一個の特定の物に限定される場合と、複数個の可能性を持つ場合とがある。従って、その既出の事物との同一指示関係も、一対一の場合と、一対多の場合の二通りが、存在し得るという事になるのである。

一対一のみならず、一対多というズレを含む対応関係が起こり得るという事実は、不定名詞句が、既出の物を指示するのでなく、同じ事物でも、独自に新たに提示する表現形式である事に起因している。このように、不定名詞句が後に現れる場合の同一指示関係というのは、一事物における絶対的な一致が、形式から保証されるというものではなく、先に明らかになった、名詞句内外に含まれる意味的要因により、示唆されるものなのである。

4

以上、本論では、指示表現の同一指示解釈について、特に、一般的な順序に逆行する場合の、同一指示解釈について、論じてきた。逆行して現れる指示表現が、定名詞句である場合を第二章で、~~代名詞~~不定名詞である場合を第三章で扱った。

定名詞句の場合、これは、既知の事物を指示する表現形式ではあるが、指示だけにとどまってはいない。句の中に含まれる情報が、文脈において重要な、当事物の性質を伝え、事物の新たな捉え方を提示している。この様に、代名詞では盛り込むことのできない情報を盛り込むという、定名詞句使用の必然性が聴者に明確に伝わるのであれば、聴者による同一指示解釈は可能となるのである。

次に、不定名詞句の場合、これは、既出の事物との関係を示さない表現形式である。よって、先行する他の指示表現と同一指示になる場合でも、その同一性は、あくまで間接的に、名詞句内外の意味的要因により、示唆されるのみである。名詞句内では、句の中の語の意味の重なり、名詞句外では、付髄する部分により示される、事物の置かれた状況の一致、といった要因が、聴者に同一指示解釈を促すこととなる。但し、不定名詞句が、指示表現の基本的順序に逆行して現れる場合、同一指示性は、形式的レベルでは全く保証されない。一致の仕方にもズレが許され、話者は同一指示性については責任を持たず、聴者にその解釈を委ねることとなるのである。

参 考 文 献

Chafe, W. L. (1980), "The deployment of consciousness in the production of a narrative," in W. L. Chafe (ed.), *The Pear Stories: Cognitive, Cultural and Linguistic Aspects of Narrative Production,* Norwood, N. J.: Ablex.

Clancy, P. M. (1980), "Referential choice in English and Japanese narrative discourse," in W. L. Chafe (ed.), *The Pear Stories: Cognitive, Cultural and Linguistic Aspects of Narrative Production,* Norwood, N. J.: Ablex.

Erteschik-Shir, N. (1979), "Discourse constraints on dative movement," in T. Givón (ed.), *Syntax and Semantics 12: Discourse and Syntax,* New York: Academic Press, 441–467.

Garrod, S. & T. Sanford. (1981), "Bridging inferences and the extended domain of reference," in J. Long (ed.), *Attention and Performance IX,* Hillsdale, N. J.: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

Grice, P. (1975), "Logic and conversation," in Cole & Morgan (eds.), *Syntax and Semantics 3: Speech Acts,* New York: Academic Press, 41–58.

Hinds, J. (1977), "Paragraph structure and pronominalization," *Papers in Linguistics 10,* 77–99.

古賀恵介 (1988),「冠詞論序説——指示構造から見たその基本的特質」『九大英文学』Vol. 31, 205–230.

Levinson, S. C. (1987), "Pragmatics and the grammar of anaphora: a partial pragmatic reduction of binding and control phenomena," *Journal of Linguistics 23,* 379–434.

Longacre, R. E. (1979), "The paragraph as a grammatical unit," in T. Givón (ed.), *Syntax and Semantics 12: Discourse and Syntax,* New York: Academic Press, 115–133.

Stenning, K. (1978), "Anaphora as an approach to pragmatics," in M. Halle, J. Bresnan, & G. A. Miller (eds.), *Linguistic Theory and Psychological Reality,* Cambridge: The MIT Press.

Yule, G. (1979), "Pragmatically controlled anaphora," *Lingua 49,* 127–135.

例文の出典

Dahl, R. (1979), "Galloping Foxley," in K. Manabe (ed.), *Tales of the Unexpected,* Tokyo: Kaibunsha.

Garrod, S. & T. Sanford. (1981), "Bridging inferences and the extended domain of reference," in J. Long (ed.), *Attention and Performance IX,* Hillsdale, N. J.: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

Stenning, K. (1978), "Anaphora as an approach to pragmatics," in M. Halle, J. Bresnan, & G. A. Miller (eds.), *Linguistic Theory and Psychological Reality,* Cambridge: The MIT Press.

Time, 21 Sep. 1987.

____, 1 Aug. 1988

____, 15 Aug. 1988

____, 22 Aug. 1988

____, 29 Aug. 1988

____, 5 Sep. 1988